

修士を終えて

平成 21 年度修士課程修了 小野寺 梓

2007 年の春、また学生に戻ったわくわく感を覚えつつ、教育学研究室でセクシャリティやジェンダーについて学びを深めるようになってから、あつという間の 2 年間でした。自分としては、修士課程を終えた頃には、もっと研究方法や統計について分かるようになっているはずだったのですが、勉強不足に終わってしまいました。

しかし、橋本先生を始め、同期の坂口さんや研究室メンバーの良さん、田中さん、渡邊さん、茂木さん、森岡さん、小竹さんたちとゼミで議論をし、色々と教えていただき、2 年間の成果として修士論文を提出することができました。本当に感謝しております。ありがとうございました。

私にとって、修士終了後の職場も特に決まっていなかった中、修士論文を書くということは、ほとんど趣味に近いような位置づけでした。それ故、何度も投げ出したくなる時はありましたが、苦心して調査をし、論文にまとめ上げた課程はしっかりと私の肥しとなっており、現在、保健師として働く職場では、アンケートの集計や分析をよく依頼され、頼りにされているようです。

修士を終えた今でも、まだまだ勉強したいことはたくさんあります。時々、教育学研究室を訪れると、変わらず研究に励んでいる皆様の姿を見て、私も頑張らなくては、と気持ちを新にして帰ります。橋本先生のお人柄が表れるように気軽に立ち寄ることができる研究室は、ホッとできる場としても、学びの場としても、とても有難い存在です。

最後になりましたが、村田さんには在学中は勿論のこと、修士終了後も大変お世話になっており、毎度毎度深く感謝しております。そして、修士論文だけでなく、大学紀要にあたっても熱心に御指導くださいました、橋本先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成 21 年度修士課程修了 坂口由紀子

修士 2 年間は、仕事と家事育児を両立しながらの崖っぷち生活でした。崖から転げ落ちそうになるといつも手を差し伸べて救い出してくれたのは、同志の小野寺さんでした。そして石につまずき転落しないように環境を整えてくださったのは、村田さんでした。途中でめげそうになった時に応援して活力をくださったのは教育学研究室のみなさんでした。そして、スタートからずっと一筋の光を当て続け、ゴールまで導いてくださったのは橋本先生でした。橋本先生の明確なご指導と励ましのお陰で目の前が真っ暗になっても、一步步ずつ前に進んでいったのだと実感しています。

私は今、研究職としてスタートをきったばかりですが、修士の 2 年間で本当に多くの学びを得ることができました。研究の基本的なノウハウはもちろんのこと、自分の専門分野とは異なる分野の研究手法、海外における動向と比較することの意義、一つのことを探求する面白さ、歴史的背景を捉える大切さなどなど、今まで看護の世界に浸っていた自分の狭まった視野を大きく広げることができました。修士 2 年間での学びは私の人生の糧になるものばかりでした。そして何よりも橋本先生、村田さん、小野寺さん、諸先輩方、教育学研究室のみなさんとの出会いが私の一番の財産になりました。

修士課程が終了してからは、入学時の何倍も探究心が高まっており、まだまだ明らかにしたいことがたくさんでてきました。修士 2 年間で受けた新鮮な感動と多くの刺激を忘れず、一生成長し続けて生きたいと思います。そしていつか自分も指導する立場になったら、学生達に自分から学び取る喜びを体験してもらえるような教員になりたいと願います。この 2 年間、私を信じてご指導して下さった橋本先生をはじめ、たくさんの気遣いや励ましを下さった教育学研究室のみなさまに心より御礼申し上げます。本当に、本当にありがとうございました。